

「夢のある地域を残したい」

ブルーベリーで限界集落再生に挑戦

京都・舞鶴市 児玉 亘さん



ブルーベリーで地域活性化に挑む児玉さん

【京都】中山間地域で高齢化が進む舞鶴市室牛地区は、7世帯の小集落。水田を守る主力は80歳前後の3人で、あと5年が限界だった。室牛で育ち、昨春まで市職員を31年間勤めた児玉亘さん(52)は「故郷に人を呼び込み、全力で将来に希望が持てる地域をつくるため、早期退職して起業したい」と決意。各地の観光農園を見学して事業計画を練り上げ、今年6月、ブルーベリーの観光農園をオープンした。

自宅前の田んぼ(24㍏)に昨年植えた40種類600本のブルーベリーは順調に成長。8月中旬まで、常時10種類以上のブルーベリーの収穫を楽しむことができる。5年後の集客目標は年間4千人。室牛や大浦半島周辺地域の知名度を高めて来訪者を増やし、将来は移住や農業への参画など関係人口の増加につながるればと期待している。

詳細は、ブルーベリーバレーまいるのホームページ(<https://blueberryvalley.com/>)を。 (舞鶴市農業委員会)

伝統の仙霊茶づくり受け継ぐ

兵庫・神河町 野村俊介さん

友人の生き方に共感し就農

【兵庫】豊かな山河に囲まれ名水が湧き出す神河町で、江戸時代の1716年から続く「仙霊茶」の生産を神戸市出身の野村俊介さん(46)が2018年に受け継いだ。医療機器メーカーに勤めていた野村さんが農業を志したのは、無農薬・無肥料の農園を営む高校時代の友人と再会し、その生き方に共感したから。さっそく会社を辞め友



深緑の茶園で野村さん

人住む町に引っ越し、ほどなく後継者を募集していた神河町の仙霊茶と出合った。一般的な日本茶は、肥料でうまみを出した茶葉を使い、ブレンドで味を調えるが、野村さんの作る仙霊茶は無農薬・無肥料の自然栽培。国内でも希少な「味のブレ」を楽しむお茶だ。年會費制でお茶のセツトが届く「オーナー制度」や、深緑の茶園を楽しむ「茶園カフェ」なども好評だ。野村さんは「300年続いたお茶づくりを、さらに300年伝えたい」と語る。

地鶏で地域おこしめざす

和歌山 田辺市 「龍神コッコ」普及に力

【和歌山】龍神地鶏は田辺市龍神村地域固有の希少な日本鶏で、300年以上前から龍神村で飼育されてきた。県では、2012年から龍神地鶏を貴重な遺伝資源として保護・活用する取り組みを進めている。

21年に県養鶏研究所が卵肉兼用のロードアイランドレッドとの交配により、採卵鶏「龍神コッコ」の育種に成功。現在同市の龍神村と中辺路町で約500羽が飼育、採卵され、卵やプリンで売られている。

地元では商工会や観光協会、養鶏農家らが「龍神コッコ普及協議会」を設立、地域おこし活動として普及に取り組んでいる。また、近年では、龍神コッコを交配親とした

本梨の幸水、豊水、二十世紀、南水、あきづきの収穫シリーズに合わせて販売していく。販売期間は、8月15日から10月15日までの期間限定で、参加製菓店などで購入できる。



商品化に向けレシピを検討する学生ら、新たに考案した「キャラメル梨どら焼き」(仮称)

短大生らとともに新レシピ開発

長野 南信州日本なし産地再生プロジェクト

【長野】魅力的で稼げる梨産地の再構築をめざし、2022年に始まった南信州日本なし産地再生プロジェクトは、日本梨を使用した菓子や料理を新たに商品化して消費拡大をめざす取り組み。地域内の製菓店や飲食店13店が参加して商品化を進めてきたが、本年度はメンバーに飯田短期大学と下伊那農業高校が加わり、製菓店とペアを組んで学生らがレシピ考案と試作を重ね、商品の開発を進めている。

すでに「キャラメル梨どら焼き」(仮称)や「梨マカロン」(同)などのスイーツを開発し、日



主催者あいさつをする可知代表

愛知で魅力ある地域づくり研究所主催

「地域まるっと方式」導入法人が初交流

【愛知】農地中間管理事業をフル活用する「地域まるっと中間管理方式」に取り組み県内21法人が7月25日、豊田市の「しきしまの家」に集まり、初めての交流会を開いた。同方式を提唱する魅力ある地域づくり研究所(可知祐一郎代表)が主催したもの。農場を視察した後、豊田市の(一社)押井営農

可知代表は「担い手が減少し、どう地域を守っていくかが課題。ポイントは担い手の確保と収入の確保の2点で、交流会でヒントになる取り組みの紹介があったので、今後に生かしてもらいたい」と総括した。

トランを手がけている。代表の下本大吾さん(40)は、新規就農して6年目。「農園を若者が働く場、人が集まる憩いの場にしたい」と話す。トマト狩りとBBQセットが8千円。トマト狩りと農園レストランセットは5千円。トマト狩りは、専用ハウスで真っ赤に熟した麗月をじか取りして味わえる。BBQ場とレストランでは、飛騨牛やトマトソースの Pasta、スイーツが楽しめる。家族連れのほか、観光バスの団体などが訪れ、好評だ。

息子の章登さん(右)、改装した軽トラと一緒に



石川・珠州市 船章博さん

「おしゃれな農業」実践 若者離れに歯止めを

【石川】珠州市でスイカやブロッコリーを生産する船章博さん(43)は、コロナ禍のさなか農業に興味を抱いて就農。若者の農業離れに歯止めをかけようと、「おしゃれな農業」に取り組んでいる。

亡き祖母が使っていた遊休化した農地を再生し農業を始め、近くの耕作放棄地を借り受け徐々に耕作面積を拡大した。近隣の農業法人から米ぬかやもみ

中日本版

各地の話題

(珠州市農業委員会)

岐阜・高山市 下本農園

【岐阜】高山市久々野で夏秋トマトを90㍏の規模で生産する(株)下本農園は、毎年規模拡大しながら15㍏超の高い単収を達成。拡大路線を続けるが、今シーズンからトマト狩り、BBQ



農園を憩いの場に トマト狩り BBQセットで

肉用地鶏の育種研究が進められ、開発に期待が寄せられている。

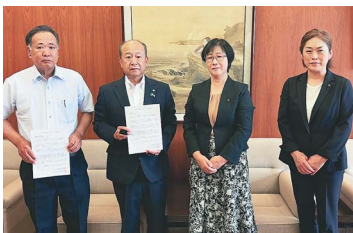


採卵鶏「龍神コッコ」の雌(和歌山県提供)がせられていた。

●主査は「貴重な地域資源を大切にし、龍神地鶏とその交配種がより広く知られ、今後も地域の財産として継承されれば」と話した。

下本さんは「視野を広げ、農業生産と相乗効果のある事業をもっと展開していきたい」と意欲を燃やしている。

キッチンカーの前で下本代表



左から八幡会長、西脇町長、笠原会長、若杉理事

の女性登用拡大を要請した。笠原氏が「全国的に農業委員への女性登用3割を目標としているが、新潟県は13・6%で全国平均の14・1%を下回っている状況。女性登用について配慮をお願いしたい」と要請。西脇町長は「男性も女性も同じ知識を持つて農業に取り組んでいる。女性に遠慮があるのかもしれない。農業委員に限らず女性登用は必要と理解している」と話した。

八幡会長は「当町は砂丘地で果樹・園芸が盛ん。女性農業者が多いので候補者はいれると思うが、家族の理解も必要」と回答した。

笠原氏は「一人でも多く登用されるよう、要請活動を続けたい」と話している。

組合の鈴木辰吉代表と若手県西和賀町の(一社)大野もつこりの郷・泉川道造事務局長が事例報告。参加した全法人の活動状況を自己紹介しあい、活動のあり方をめぐって意見交換した。

その中で、「消費者と米の長期栽培契約を結び、将来にわたって米の供給を約束する『自給家族』方式は農業維持に重要。全国に普及していったほしい」などの意見が出された。